

地域に根付く 優しい味と思いやり

望月 亮子さん（86・明科七貴）

宮川 智江古さん（85・明科東川手）



宮川さん(左)・望月さん(右)



■プロフィール

望月亮子さん 昨年まで「えべや」みそ加工部門の部長を務めたみそ作り名人。現在は指導役として、伝統の味を伝え続けている。

宮川智江古さん 副組合長を務めてきた「えべや」を昨年引退。引退後も「えべや」を定期的に訪れ、活動を応援し見守っている。

地元産の材料を使った伝統食や弁当、みそなどを製造・販売するあかしな農産物加工交流ひろば「えべや」を支える2人に長年暮らす地域への思いを聞きました。

守りたい

安曇野ならではの味

出会って50年以上の付き合いとなる2人。安曇野ならではの食文化を家庭や地域で受け継ぎ、「えべや」から次の世代へ技術や思いを伝えていきます。「この地で取れたものを新鮮なうちに加工することで出せる味がある」と宮川さんは話します。特に思い入れがあるのは毎年11月から始まるみそ作り。味の決め手となる良質な米こうじを作るため、望月さんは自分の手の感覚で米の炊き加減を見極めます。その米こうじと柔らかく煮てつぶした大豆、塩を混ぜて10カ月熟成させたら、おいしいと評判のみそが完成。「みそに欠かせない大豆と米は安曇野産」と望月さんはこだわりを語ります。

今でこそ買うことが当たり前になったみそ。以前は各家庭や近所が集まって作っていました。「当時は五右衛門風呂のような大きい鍋で大豆を煮てね。レシピもないから、地域の人から教わったことを書き出して作り方を覚えて」と望月さん。宮川さんは「近所の人たちとみそをすることで、自然と

技術が伝わっていった。時代が変わっても貴重な技術は受け継がれてほしい」と希望を話します。

互いの顔が見える心地よさ

「えべや」で週に一度行われるコンニャクと豆腐作りの日には2人の姿があります。「みんなに会えるのが楽しみ」と手際良く丁寧な作業する望月さん。様子を見に訪れた宮川さんは「作り終えたみんなとお茶を飲む時間が何より幸せ。いきいき暮らすための張り合いになっている」と笑います。

長年暮らす地域にも人と人との温かさが溶け込んでいると感じています。畑で収穫した野菜や手作りのおかずを近所にお裾分けして声を掛け合ったり、顔を合わせると時間を忘れて話したり。互いの顔を見て言葉を交わす心地よい関係はこれからも続いてほしい大切なつながりです。

時代の移り変わりを見つめてきた2人は「時の流れで変わっていくものもあるけれど、地域の温かさは変わらない。身近にある何気ないものが見直されて価値が出てくることもあるから不思議ね」と、安曇野にこれからどんな価値や魅力が生まれてくるのか期待を話しながら顔を見合わせ笑います。

大切にしている職人魂

2人が安曇野工場で作作しているのは主にエレキギターとオルゴール。「安曇野は比較的低湿度が低く、特に夏はカラッとしているので楽器作りに適しているのかもしれないね」と浅川さん。

2人はこれまでに何百本ものエレキギターを作ってきました。携わっているのは工程の一部ですが、大切にしている信念があります。それは、その時の100%の仕事をする。手掛ける製品は多くてもお客さんが手にするのはその中の一つ。絶対に手は抜かないと力を込めて語る姿からは職人としての誇りを感じます。

そして、エレキギターに比べ生産量が圧倒的に少ないオルゴール制作を続けるのにも理由があります。オルゴールは部品も含め全てを一から手作りします。種類の異なる材を接着して木箱を作ったり、寸法が狂わないように調整したりと、一つのオルゴールには多くの職人の技術の結晶が込められています。その技術を継承していくため、フジゲン㈱はオルゴール作りを続けています。オルゴール作りに携わったことのある2人も「お客さんが感動してくれた時の生の声が励みになっている」と、手作りならではのやりがいを語ります。

浅川 貴弘さん（53・三郷温） 矢彦沢 学さん（48・穂高） 日々感じる何気ない幸せと職人魂



矢彦沢さん



浅川さん



■プロフィール

浅川貴弘さん 松本山雅FCのファンで息子と一緒に応援に出掛けている。
矢彦沢学さん 妻と4歳の娘の3人暮らし。以前はバイクを趣味としていたが乗る機会が減り、最近は家庭菜園にハマっている。

穏やかと便利がすぐ近くに

普段の生活では、家族そろっての夕食や子どもとお風呂に入るといった何気ないひとときに幸せを感じている矢彦沢さん。幹線道路から一本脇に入るだけで田んぼや畑が広がり景色も良く、車通りも少なく安全なので、休日にはよく散歩をしています。また、浅川さんも「都会と違って圧迫感が少なく、時間の流れが穏やかに感じる」と暮らしの魅力を話します。

安曇野は市街地と居住地がまとまっていて、国営公園をはじめ子どもと遊ぶフィールドもたくさんあります。スーパーや家電量販店、衣料品店など何でも近くにあり。市外に出なくても用が足りるので「ここ数年市内から出ていない」と矢彦沢さんは笑います。